

# 2024 年度 自己点検・評価報告書

## 酪農学園大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）

酪農学園大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進委員会において実施した「自己点検・評価」について、次のとおり報告いたします。

No	自己点検・評価項目	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	備考
1	プログラムの履修・修得状況	<p>2024 年度から本プログラムが開始され、1 年次開講科目である「情報科学の基礎」及び「情報処理基礎演習」の履修者及び単位修得者は次のとおりである。</p> <p>○農食環境学群（食と健康学類（管理栄養士コースを除く））</p> <p>情報科学の基礎：履修者 200 名、単位修得者 124 名</p> <p>情報処理基礎演習：履修者 359 名、単位修得者 342 名</p> <p>○獣医学群</p> <p>情報科学の基礎：履修者 11 名、単位修得者 11 名</p> <p>情報処理基礎演習：履修者 215 名、単位修得者 208 名</p> <p>なお、2025 年 3 月時点における「情報科学の基礎」及び「情報処理基礎演習」両方を修得した学生は 135 名である。</p>	
2	学修成果	<p>2024 年度に履修した学生について、当該科目の到達目標を授業内課題及び期末試験により評価した結果は次のとおりであった。</p> <p>【情報科学の基礎】</p> <p>S：22 名、A：30 名、B：37 名、C：46 名、D（不合格）：56 名、×（受験不可）20 名</p> <p>【情報処理基礎演習】</p> <p>S：228 名、A：177 名、B：93 名、C：52 名、D（不合格）：7 名、×（受験不可）17 名</p> <p>（注）受験不可：出席日数不足</p> <p>「情報科学の基礎」について、D 評価が多い点を懸念している。年度によるバラつきはあるものの、授業評価アンケートの結果や 2025 年度の状況も踏まえて、対応を検討していきたい。</p>	

No	自己点検・評価項目	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	備考
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートからは、「情報科学の基礎」及び「情報処理基礎演習」とともに、授業内容に興味を持って多くの知識を得ることができ、有意義な授業であったことが伺える。また、アンケートの自由記述に関しても批判的なコメントはなく、「社会に出た際に必要なスキルの基礎を身に付けることができる」という記述があった一方で、授業の進行速度が速いというコメントもあった。学生一人ひとりの理解度に違いがある中、どのように進行することが良いかを検討していく。	
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業評価アンケートの項目には、「後輩等他の学生への推奨度」という項目はないものの、自由記述には「将来に役立つ」や「ゼミなどで活用できそう」というコメントがあることから、後輩等他の学生への推奨度は高いものと推察できる。	
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2024 年度に開始したプログラムのため、学生への周知が十分に行えなかった点があり、2025 年度に入学した学生の履修状況は前年度と同水準となっているが、身に付ける力と社会との関連性を上手く説明することにより、学生の興味関心は高まるものと考えている。また、本学においては、国家資格取得を目指す食と健康学類（管理栄養士コース）、獣医学類、獣医保健看護学類の学生に対して、どのようにアプローチしていくかが課題と感じているため、その点を引き続き検討していきたい。	
6	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは 2024 年度から開始し、2 ヶ年にわたるプログラムとなるため、現在はまだ修了者はいない。 2024 年 4 月以降に入学した学生を対象としており、現 2 学年で対象科目の単位を修得した学生が初めての修了者となる。その後、卒業・就職までに 2 年あるが、当該学生が就職後は、キャリアセンターとも連携し、企業へのアンケート調査等により状況把握を行っていきたい。	
7	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現時点では意見収集を行っていないが、本学においては、2026 年 4 月に開設予定の「農環境情報学類」の届出申請準備の中で、企業への聞き取り調査を行っていることから、「情報の力」をもった人材のニーズ等を把握しながら対応を進めていきたい。	

No	自己点検・評価項目	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	備考
8	数理・データサイエンス・A Iを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	データの分析を通して、意外な事実や興味深い相関関係を発見する演習を実施することで、学生がデータ分析の面白さを理解できる工夫をしている。さらに、分析結果をグラフや図などの視覚的な表現を用いた発表をすることで、学生が自身の学習成果を共有し、互いに刺激し合いながら学びを深めることができるように工夫している。	
9	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	プログラムの受講生は、この分野の基礎知識をほとんど持たず、初めて学習する学生であることを前提として講義・演習を準備している。そして、eラーニングで授業動画を活用するなど、学生が十分に自学自習できる環境を整備するとともに、科目担当教員間でeラーニングの相互登録や演習問題の共有などを行うことによって、授業内容の改善に努めている。	

以上